モニタリング結果報告書

施　　設	神奈川県総合リハビリテーションセンター
指定管理者	社会福祉法人　神奈川県総合リハビリテーション事業団
施設所管課	保健福祉局　総務部　病院事業課

（平成23年度　下半期）

管理運営状況総括

1　今期の指定管理者の管理運営状況（2～10の結果を踏まえ、判定してください）

B

＜判定理由＞
提案どおりに取り組んでいるほか、法人業務の効率的な運営を積極的に進め収支状況も安定していることからB判定とした。

A：提案を上回る取組みを実施し、極めて良好な管理運営状況である。
B：提案どおりに取組みを実施し、良好な管理運営状況である。
C：提案どおりに取組みを実施したが、管理運営状況については、一部工夫が必要な面がある。
D：提案どおりに取組みを実施していない。また、提案どおりに取組みを実施したが、管理運営状況については、抜本的な改善が必要である。

2　月例報告によるモニタリングの概況

報告月	受理日	確認通知日	確認方法 月報確認	現場確認	電話確認	指導等の有無	備考（指導事項等）
10月	11月30日	12月19日	○	○	○	なし	月報を確認、特に改善すべき事項はなし。
11月	12月28日	1月16日	○	○	○	なし	月報を確認、特に改善すべき事項はなし。
12月	1月31日	2月13日	○	○	○	なし	月報を確認、特に改善すべき事項はなし。
1月	2月29日	3月9日	○	○	○	なし	月報を確認、特に改善すべき事項はなし。
2月	3月30日	4月13日	○	○	○	なし	月報を確認、特に改善すべき事項はなし。
3月	5月2日	5月30日	○	○	○	なし	月報を確認、特に改善すべき事項はなし。

3　指定管理者の選定理由にある取組み等の実施状況

（指定管理者の選定に際して、サービスの向上や利用促進の観点から提案された各取組み等について、提案内容の要旨とそれに対応する形で実績又は今後の見込みを記載する。）

〈提案内容の概要〉

1　総合性・高度専門性の発揮
　(1) リハセンターの一体的な運営の推進
　(2) 福祉施設の機能充実
　(3) 病院の機能充実
　(4) 地域支援センター機能の充実
　(5) 研究・開発機能の充実
　(6) 地域の関係機関との連携強化への取組み
　(7) 専門職員の育成
2　利用者本位のサービスの提供と安全対策
　(1) 人権擁護と個人情報の保護
　(2) 利用者サービスの向上対策
　(3) 自己評価・第三者評価等の推進
　(4) 安全対策の推進
3　効果的・効率的な運営
　(1) 採算性に配慮した運営
　(2) 収益の確保対策と経費の節減対策

〈実施状況〉

リハセンターの一体的な運営の推進

・ 病院と福祉施設、地域支援センターの連携により、病院での医療リハビリテーションから福祉施設での社会リハビリテーションをセットにして社会復帰に向けた支援を行なうとともに、病院・福祉で培ったノウハウを県内の市町村、居宅介護支援事業所、ケアマネなどの地域資源に還元し、障害者が地域で自立した生活をしていけるよう、地域との連携をはかった。

・ 長年にわたるリハビリテーションに関するノウハウの蓄積、豊富な経験により、多種多様な疾患、障害に対応した。また、多診療科による総合的な診療が可能であることから、身体障害、知的障害者など、障害者が持つ様々な合併症に対応した。医師・看護師・リハスタッフが障害者（知的・身障）の合併症への専門的理解、知識、経験を持ち、タイムリーな医療提供をおこなった。

・ 職能、体育、リハ工学、心理といった独自の部門の存在とともに、多職種の連携、チームアプローチによる支援により、複雑な障害に対して個々のケースに対応するリハプログラム、技術の提供を行なった。

・ 一般的な福祉施設では、看護師は日勤帯のみの対応となるが、リハセンター福祉施設では、看護師が夜間常駐し、注腸など医療的行為など、利用者の医療管理を行った。重症心身障害児者施設は、病院と併設されていることから当直医師による24時間の緊急対応が図られた。理学療法、作業療法等の機能訓練では、病院から福祉施設での継続した訓練を行なうことができた。このように、リハセンターの1体的な運営として、医療と福祉が連携した対応を図ることができた。

七沢学園

1　総合性・高度専門性の発揮

・知的障害児者に対し、病院と連携して難治性てんかんや胃婁等医療的課題のある方の受入や、強度行動障害、発達障害等を持つ方への支援を行ない、行動障害の軽　減、環境への適応性の向上に取り組み、地域生活に向けた支援を行なった。

・地域生活に向けた取組により、上半期下半期合わせた実績として児童は退所者32人中25人（78.1％）が、また成人は退所者34名中24名（70.6％）の利用者が家庭、グループホームを活用した地域生活に移ることができ、地域生活への移行への支援という役割を果たすことができた。

・日中支援機能の充実のため、課題の多いケースには、心理科の協力を得て行なうなど、個人に沿ったプログラムを充実し対応している。

・他施設では受け入れが困難な医療重度者の支援に向けた入所支援サービスに取り組んだ。（7名入所）

・強度行動障害者への対応は、県強度行動障害対策事業連絡調整会議への参加、訪問調査などに取り組むとともに、神奈川リハ病院と連携しSST手法等を実施している。（SST手法とは、ソーシャルスキルトレーニングの略。知的障害者の社会生活力を高める訓練）（強行6人受入）

・感覚訓練用にOTからアドバイスを受けながら専用訓練室「スヌーズレン」（重度知的障害者に対し、感覚刺激空間を用いて最適な余暇やリラクゼーション活動を提供する場）を設置。今年度は4名の方に利用開始した。

・発達障害児に対し、神リハ病院心理科と連携したSST手法を用い、発達段階に合わせた支援プログラムを実施している。

・知的障害児童に対して、療育期間1ヶ月から6ヶ月とした集中療育の支援プログラムにより、生活リズムの立てなおし、排泄訓練、体重コントロール、身辺処理の自立、コミュニケーションの拡大といった直接的なケアのもの、母子分離、集団適応能力観察、心理評価、行動観察・評価など間接的なケアのものの他、レスパイト、一時的な養護性、長期施設待機などの付帯的目的のものや、養育環境の整備、不登校の改善、行動改善を実施している。（8枠～4枠を活用し年間36人を受入）

・各児童相談所との連携、家族支援、児童への精神的ケアなど被虐待児への支援を行った。

・複合施設ならではの取り組みとして、七沢学園では、23年4月から重度心身障害者の通所利用を初の試みとして開始した。また、22年度より高次脳機能障害の児童を家族短期入所事業で受入れを行なっているが、平成23年度は3家族7名（対象児童3人）の受入を行なった。受入にあたっては、小児科医や家族会、心理科の協力のもと、医師の講義や家族間の情報交換、支援員によるSST訓練などを行なった。

・地域のイベントへの参加、実習生、ボランティアの受入れなど地域との連携を図った。

2　利用者本位のサービスの提供と安全対策

・職場内研修、職場外研修(中央,厚木児童相談所)、派遣交流研修などを実施した。
・施設内における感染症予防（インフルエンザ、ノロウイルス対策等）に努めた。
・施設利用者の急変時の対応を強化するため、AED研修などを行なった。
・金銭管理マニュアル、身体拘束マニュアル、投薬管理マニュアル、無断離棟捜索マニュアル等に基づく適正な対応を行った。
・人権擁護対策チームにより、人権擁護の意識向上の為研修、人権チェック等を実施した。
・苦情解決への取組みとして毎月 第三者委員による個人相談を実施した。
・12月に利用者満足度調査を実施した。
・防災訓練計画に基づき毎月 避難訓練、消火訓練を実施した。

3　効果的・効率的な運営

・県内養護学校との業務連絡会、保護者会、短期利用制度等を利用して事業PRを行なった。

七沢療育園

1　総合性・高度専門性の発揮

・重度の知的障害と重度の肢体不自由を併せ持つ重度重複障害児者に対する支援を行なうとともに、人工呼吸器や経静脈栄養法等全身性の管理が必要な医療重度者の受入や、中短期入所による通過型の支援により地域の在宅児者の支援を行なった。

・40床のうち10床を中短期入所枠とし、在宅重心児者の在宅生活の継続や課題解決に向けた支援を展開している。地域のニーズは高く、期待される役割は大きい。（延2920人の利用）

・超・準超重症心身障害児者の受入については、中期入所を含め月平均では13.2人（最大16.2床（計画8床））の受入を行ない支援した。在宅からの中短期入所者の低年齢化、医療重度化が進み、バイタルサインを計測するモニターが不足するなど、医療用機器の増設が必要となっている（レンタル等で対応）。また、入所前に地域支援班と看護師が家庭訪問を行い、事前に情報収集、スタッフ間で共有し前もって準備にあたることで、保護者も安心され利用者、スタッフにとっても安心、安全な入所につなげている。

・県の委託により重症心身障害児者の巡回訪問を実施し、個人宅及び作業所などを訪問した。（105回実施　177人）
・重心親子教室を実施し、療育相談を行なった。（3回実施）
・厚木市・愛川町・清川村障害者自立支援協議会発達支援部会へ参加した。
・園内の研修について、看護科・支援課と共同で計画・実施した。

2　利用者本位のサービスの提供と安全対策

・個人情報保護、人権擁護等について、研修の他、朝のミーティング時に対応等への意識付けを行っている。
・施設内における感染症予防（インフルエンザ、ノロウイルス対策等）に努めた。
・施設利用者の急変時の対応を強化するため、AED研修などを行なった。
・苦情解決への取組みとして、毎月第三者委員による個人相談を実施している。
・よりよい施設運営に向けて、2月に自己評価を実施をした。10月に利用者満足度調査を実施した。
・防災訓練計画に基づき毎月 避難訓練、消火訓練を実施した。

3　効果的・効率的な運営

・療育訪問指導事業等で施設利用相談を進め、利用に繋げている（105回　177人）

七沢更生ライトホーム

1　総合性・高度専門性の発揮

・病院を退院したものの自宅での生活が困難な頚髄損傷、高次脳機能障害、脳血管障害等による重度の肢体不自由者に対し、病院に引き続く医療的リハビリテーションを行なうとともに、職業リハビリテーション、社会リハビリテーションにより、地域生活（家庭生活）が営めるよう支援を行なった。退所者　55名　（障害別内訳　脊損14人(内頚損による四肢麻痺8人）、脳外傷7人、脳血管障害22人、脳性麻痺3人、二分脊椎1人、その他神経疾患8人）（別に通所1名が退所した）

・疾病等による中途の視覚障害者に対し、感覚訓練、歩行訓練等によるリハビリテーションにより、地域生活が営めるよう支援を行なった。退所者数　14名（別に通所17名が退所した）
・地域生活に向けた取組により、肢体不自由者については、退所者55名のうち47名（85.5％）の利用者が家庭、グループホームを活用した地域生活に移ることができた。視覚障害者については、退所者14人中14人（100％）の全員が家庭に復帰することができた。
・また、入院中に住居を失った重度の障害者に対し、地域において単身生活ができるよう支援を行なった。
（単身者の地域移行　肢体不自由者17名、視覚障害者4名）
・一貫した医療と福祉サービスの提供に向け、障害別に連続したプログラムに基づいて支援した。
・社会生活力向上のため、疾患別、目的別にグループワーク等を利用して多種多様な支援プログラムを提供した。
・肢体不自由者に対して、就労自立セミナーや、健康管理に関するセミナーを開催した。
・高次脳機能障害への取組みの為、日中訓練、家族懇談会等を実施した。
・若年の脳血管障害者や頚髄損傷者への支援を行ない、就労や自立生活へ向けた取り組みを行なった。
・視覚障害者の職業の紹介や、福祉機器や盲導犬の活用方法等のセミナーを実施した。
・視覚障害者の地域生活の充実のため訪問訓練を実施した。
・神奈川リハ病院眼科外来と連携し、ロービジョン（低視覚障害）者の相談・技術支援等を行なった。
・地域支援センターの主催する研修に講師として派遣するとともに、各地域の研修に職員を講師として派遣し、連携を図った。
・教員・保護者・当事者の見学希望、体験研修、実習等の積極的な受入れを行った。
・厚木市・愛川町・清川村障害者自立支援協議会の生活支援部会に職員を派遣し、地域との連携を深めた。
・県内の社会福祉協議会や関係団体が主催するボランティア養成講習会等に職員を講師等で派遣した。
・職員の育成の為、積極的に福祉施設合同研修、神奈リハ病院主催研修、施設外研修等に参加させた。

2　利用者本位のサービスの提供と安全対策

・人権擁護・虐待防止についての職員研修を実施した。
・施設内における感染症予防（インフルエンザ、ノロウイルス対策等）に努めた。
・施設利用者の急変時の対応を強化するため、AED研修などを行なった。
・苦情解決への取組みとして毎月第3者委員による個人相談を実施した。
・利用者満足度調査を実施した。
・防災訓練計画に基づき毎月 避難訓練、消火訓練を実施した。

3　効果的・効率的な運営

・地域医療機関説明会、見学会などをを実施し、利用率の向上に努めた。

・空床を利用した短期利用の受入を行い、施設の有効活用を図った。

・地域の回復期リハ病棟を訪問し、利用者確保を図った。

・施設機能の広報及び利用者の開拓を目的に視覚障害者の生活訓練体験会を実施した。

・相模原病院の外来通院患者および家族を対象に、国立相模原病院、神奈川リハ病院、ライトホームの合同で、「生活訓練体験会」を実施した。

・視覚障害部門オープンセミナーとして、利用者の拡大を目的に、医療関係者を対象に支援技術と施設機能の紹介を行なった。

・夜勤専門看護職員を雇用するなど多様な雇用形態に努めた。

神奈川リハ病院

1　総合性・高度専門性の発揮

・脊髄損傷、外傷性脳損傷(高次脳機能障害)、変形性股関節症(手術を含む)、神経疾患、小児神経疾患等のリハビリテーションを行なうとともに、多診療科による障害者の総合診療・総合医療の提供を行なった。

・多職種によるチームアプローチにより、医療の提供を行なうとともに、医療的リハビリテーション、職業リハビリテーション、社会リハビリテーションにより、家庭復帰、復職・復学等、地域での生活が営めるよう、個々人のニーズや残存機能に応じた支援を行なった。

・退院患者のうちの主な疾患患者数
　脊髄損傷127人(内頚髄損傷による四肢麻痺77人)、高次脳機能障害(167人)、小児神経疾患(74人)、神経難病(27人)
　その他、変形性股関節症他　924人)
・退院患者のうち86.5％が自宅退院できた。

・　多科・多職種による総合的関与が可能であることから、障害者の併存疾患に対する治療を行った。また、知的障害・精神障害者への医療の提供や身体障害者の合併 症治療を行なった。(内科→各種臓器合併症治療、外科→内視鏡・障害者への手術対応、神経内科→精神障害・知的障害の併存疾患、皮膚科→マヒがあることで発生する陥入爪の治療、歯科→知的障害・脳性麻痺患者への全身麻酔下の歯科治療、麻酔科→知的障害者への全身麻酔、脊髄損傷者への全身麻酔　等)一般には、リハビリテーション病院に転院したとたんに、総合診療を受けられなくなってしまう。障害をもった人でも、大学病院や総合病院と同レベルの基本的総合診療を継続受診出来る。

・急性期病院等とのネットワークの強化の為、東海大学医学部付属病院医療連携情報交換会を開催するとともに、相互の医師間の連携(doctor to doctor)によるホットラインによる早期受入を行なった。

・高次脳機能障害者、頚髄損傷者に向けた就労支援の取組みを行なうとともに、地域就労支援機関等への助言・支援を行った。

・県内医療機関に勤務する理学療法士の卒後臨床教育へ取組んだ。(5人受講)　また、理学療法士、作業療法士の専門研修のニーズが非常に高いことから、地域支援センターの専門研修に位置づけPTOT専門研修(全5回コース)として実施した。(24人参加)

・脊髄損傷、高次脳機能障害、変形性股関節症(術中を含む)、小児脳損傷、脳血管障害にクリニカルパスにより、患者にとってわかりやすい医療を提供するとともに、平均在院日数の短縮、安定的治療、ベッドコントロールの円滑化を図った。

・医師、栄養士、看護師等で構成する栄養サポートチームによる栄養療法、摂食・嚥下障害への対応を実施した。

・厚木病院協会地域連携委員会や、県西部MSW連絡会等の近隣医療機関との連絡会、自立支援協議会等に参加し、地域連携に取組んだ。

・医療安全管理会議等が企画する病院内の専門研修を企画・実施した。

2　利用者本位のサービスの提供と安全対策

・日本医療機能評価機構の認定病院として、病院機能の向上、患者サービスの向上に向けた取り組みを図った。

・医療安全推進室のリスクマネージャーを中心に、ヒヤリ・ハット事例を含むすべての事故事例をインシデント・アクシデント・クレームレポートとして報告する制度により、事故事例の分析などを通じて事故の再発防止に取組み、安全安心な医療サービスの提供に取り組んだ。

・アドボカシー室において、利用者からの要望、苦情に対する回答として院内表示及び郵送などによる対応を行った。
　(苦情・要望に対する対応状況件数　107件)

・入院患者満足度調査(11月)、外来患者満足度調査(1月 下旬～2月 上旬)を実施した。

・禁煙外来による禁煙指導を行った。(禁煙外来延べ患者数　26人)

・新型インフルエンザ対応マニュアル等、医療安全マニュアルによる安全対策を実施している。

・医療安全対策の取組みとして、離院、離棟捜索訓練、医療安全研修、医薬品安全使用チェックリストに基づく業務点検等を行った

3　効果的・効率的な運営

・利用率当初計画の達成に向けて、次のとおり取り組んだ。
　①　入院審査会(毎日開催)
　②　Dr to Drの紹介患者早期受入れ
　③　入院患者確保対策(病院訪問を実施、入院案内・申込書・入院までの目安日を関連病院に郵送)
　④　市町村担当者や近隣病院のケースワーカーへの病院説明会による情報提供の実施

・ホームページや広報誌の充実に取り組んだ。

・請求もれ、査定減対策等の推進に取り組んだ。

・医薬品、診療材料等の廉価購入、後発医薬品の購入等の促進に取り組んだ。

・夜勤専門看護職員を雇用するなど多様な雇用形態に努めた。

七沢病院

1　総合性・高度専門性の発揮

・生活習慣改善による脳卒中の予防から発症後の回復期にある患者に対するリハビリテーション、さらには退院後の機能低下に対する再訓練を行なうとともに、高次脳機能障害や合併症による重度・重複障害の社会復帰に向けた支援を行なった。

・多職種によるチームアプローチにより、医療の提供を行なうとともに、医療的リハビリテーション、職業リハビリテーション、社会リハビリテーションにより、家庭復帰、復職等、地域での生活が営めるよう、個々人のニーズや残存機能に応じた支援を行なった。

・退院患者のうち78.0％が自宅退院できた。

・入院患者の多くに何らかの高次脳機能障害を有しているため、臨床心理士、PT、OT、ST、看護師等による総合的アプローチを実施した。

・医療の質の向上を図るため、クリニカルパスによる入院から退院までの一貫した流れを図式化し、患者を含め情報を横断的に共有できることで入院期間の短縮やチーム医療の徹底が図られた。

《クリニカルパスの種類》

・脳卒中リハビリテーション・クリニカルパス

・生活習慣改善入院クリニカルパス

・生活習慣改善入院の機能により、脳卒中の予防に努めた。（実40人　延1413人）

・入院時栄養スクリーニングを全患者に実施し、栄養サポートチームにより定期的に病棟回診を行った。

・摂食・嚥下障害のある患者に対して、摂食・嚥下障害看護認定看護師と他職種と共に回診し、多角的な視点からアプローチを実施した。間歇的経口食道経管栄養法（IOE）による経口摂取アプローチ、経口摂取に向けての食道へのバルーン拡張法

・「摂食・嚥下外来」や「禁煙外来」の専門外来を実施した。

・大学研究機関や企業と連携をし、新たなリハビリ技術であるロボット工学を活用した 「パワーアシストバンド」の臨床検証をはじめた。

・県内医療機関MSWを対象とした見学会の開催、自立支援協議会の参加等で地域関係機関との連携を図った。

・脳血管疾患患者の早期受け入れに向けて、救命救急センターとの連携強化に取り組んだ。

・患者の人権擁護等利用者サービス向上のため、研修を開催し、医療従事者として必要な知識の向上に努めた。

・脳卒中地域連携パスの推進として、8つのグループに参加するなどの取組みを行った。

2　利用者本位のサービスの提供と安全対策

・医療安全推進室のリスクマネージャーを中心に、ヒヤリ・ハット事例を含むすべての事故事例をインシデント・アクシデント・クレームレポートとして報告する制度により、事故事例の分析などを通じて事故の再発防止に取組み、安全安心な医療サービスの提供に取り組んだ。

・アドボカシー室において、利用者からの要望、苦情に対する回答として院内表示及び郵送などによる対応を行った。

・入院患者の早期離床、ADL向上の促進のため、土曜日リハビリテーション訓練を実施した。

・リハスタッフと看護職員が連携し、病棟内リハビリテーション訓練を実施した。

・利用者満足度調査は下半期に実施する予定である。自己評価等を実施した。

・新型インフルエンザ対応マニュアル等、医療安全マニュアルによる安全対策を実施している。

・医療安全対策の取組みとして、離院、離棟捜索訓練、医療安全研修、医薬品安全使用チェックリストに基づく業務点検等を行った。

3　効果的・効率的な運営

・毎月施設の利用状況及び収入分析について経営会議で報告し、適切な施設経営に努めた。

・利用率当初計画の達成に向けて、次のとおり取り組んだ。

① 入院審査会（毎日開催）

② Dr to Drの紹介患者早期受入れ

③ 入院患者確保対策（44病院に対して毎週空床情報をFAXで送付等）

・脳卒中公開講座の開催により、一般県民向けに脳卒中予防や病院の機能紹介を行なった。

・ホームページや広報誌の充実に取り組んだ。

・請求もれ、査定減対策等の推進に取り組んだ。

・医薬品、診療材料等の廉価購入、後発医薬品の購入等の促進に取り組んだ。

・夜勤専門看護職員を雇用するなど多様な雇用形態に努めた。

その他

1　総合性・高度専門性の発揮

地域支援センター機能の充実

・ リハセンターがこれまで培った技術・知識を地域に還元し地域リハ推進を支援するため、専門職種に対する研修、専門相談、情報の提供を行なうとともに、必要に応じて地域の個別困難事例に地域のスタッフとともに取り組んだ。（実績　相談件数412件、研修39項目　実1572人　延1779人受講）

・ 県の高次脳機能障害支援拠点として、支援方法の普及、地域連携支援を行なうとともに、県単事業として巡回相談、関係機関コンサルテーション、地域ネットワークづくりに取り組んだ。
・ 神奈川県高次脳機能障害相談支援体制連携調整委員会の開催　地域支援ネットワークの充実を図る。
・ 高次脳機能障害相談支援コーディネーターの配置により、個別支援、地域支援、研修、地域連携を柱にした事業を実施した。
・ 実績　個別相談　依頼元件数　253件、巡回相談（拠点施設での相談支援）　横須賀三浦地区24件、湘南東部地区44件）
・ 政令指定都市との連携や自立支援協議会との連携、当事者団体との連携を行なった。

・秦野市を対象にモデル事業を行い、支援技術の均てん化を図るとともに、市町村の専門人材の育成・連携支援を行なった。

・新規研修の開催、出前研修を実施し参加しやすく工夫するなど専門職員研修を充実させた。

・新規研修として、知的障害者のリハビリテーション（身体編）を実施した。知的障害者の高齢化に伴う身体援助の方法等を行なう。県内で唯一身体障害施設と知的障害施設を併せ持つ、リハセンターとしての技術・知識の提供を行なう。

・脳卒中のリハビリテーションについては、多職種を対象とする従来の2日間コースから、研修内容を細分化し理解編、実務編、装具編の全3コースとした。

・神経難病を対象にした地域リハ推進研修を茅ヶ崎保健所にて7月に実施した。地域包括支援の研修、相談支援者のためのリハビリテーションなど、地域のニーズに沿った新規研修も今後実施する予定となっている。

・一般県民等に向けたかながわ地域リハビリテーションフォーラムを開催した。153人の参加

・ホームページや「地域支援センターだより（広報誌）」により、リハビリテーション情報の提供を実施した。

1　総合性・高度専門性の発揮

研究・開発機能の充実

・病院・福祉施設であるリハセンターとして、臨床的・実践的な研究・開発を推進している

【研究テーマ】

⑴ 障害児者におけるリハビリテーションアプローチに関する研究

⑵ 障害者に関する福祉学・医学的研究

⑶ 障害児者に関する計測的・工学的研究

⑷ 障害児者に関する移動及び姿勢制御等の研究

⑸ 福祉機器の開発及び評価支援システムに関する研究

⑹ 障害児者の生活の質に関する研究

【他大学等との連携した研究】

○　東海大学工学部　曲谷研究室
「表面筋電図の分析と義肢制御への応用に関する研究」

○　近畿大学理工学部社会環境工学科（大阪府）（新規）
「高齢者・肢体不自由児者の歩行容易性を考慮した室内用視覚障害者誘導ブロックの開発研究」
誘導ブロックは商品化され公的機関に設置される予定

【各種委員会における共同研究等】

市町村等からの依頼に基づき各種委員会に参加し、福祉の町づくり、福祉用具等の安全基準作成、交通バリアフリーに関する調査研究を行なった。

○　平成23年度国際標準共同開発事業への協力
・車いす座位変換機能国際標準開発分科会への委員参加

○　平成23年度車いす付属品開発事業への協力
・車いす付属品（ブレーキ・クッション・テーブル）JIS開発委員会への委員参加
・シルバーカーJIS開発委員会への委員参加

【学会発表（23年度の主な実績）】

＜障害医学関係～電気生理学的研究　主な学会発表13題＞

・33rd Annual International Conference of the IEEE Engineering in medicine and Biology society (EMBC”11)
（第33回　生体医用工学国際学術大会）.（9月　アメリカ合衆国マサチューセッツ州　ボストン）
「Basic study on Combined Motion Estimation Using Maltichannel Surface EMG Signals 」
（表面筋電図による複合動作認識のための基礎的検討）

・第12回　計測自動制御学会　.（12月　京都市）
「SEMGを用いた動作認識における自由度向上のための基礎的検討」

＜リハ工学関係～歩行分析にかかる研究　主な学会発表2題＞

・日本めまい平衡医学会学術大会（11月　千葉市　國見発表）
「神奈川リハビリテーション病院耳鼻咽喉科における平衡機能障害に対するリハビリテーションの総括」
（耳鼻咽喉科医との共同研究）
「平衡機能障害と動揺視を来たした延髄外側症候群に対するリハビリテーション」（眼科医との共同研究）

＜リハ工学関係～車いす開発に関する研究　主な学会発表＞

・第26回リハ工学カンファレンス（8月　沖川発表）
「新型電動スタンドアップ車椅子の開発」

・第37回日本重症心身障害学術集会（9月　沖川共同演者）
「長期入院児童への就学支援」
※　理学療法士、小児科医との共同研究

・第22回日本スキー学会（3月　沖川発表）
「競技用チェアスキーの開発　バンクーバーパラリンピックへの挑戦と結果」

4　**収支状況**　（単位:千円）注:千円未満を切り捨てているため、合計は一致しません。

	収入額				支出額	収支差額
	合 計	指定管理料	利用料金	その他収入		
年間予算額 今期 （前期）	10,748,632 (11,143,615)	4,581,873 (4,904,949)	6,111,884 (6,181,979)	54,875 (56,687)	10,748,632 (11,143,615)	0 (0)
上(下)半期予算額	5,604,219	2,350,453	3,225,216	28,550	5,604,219	0
下半期	5,316,793	2,350,453	2,932,776 (0)	33,564	5,387,181	△ 70,388
10 月	739,298	230,403	506,372	2,523	989,671	△ 250,373
11 月	768,459	267,569	498,323	2,567	542,617	225,842
12 月	1,485,329	999,191	478,766	7,372	1,487,761	△ 2,432
1 月	790,291	313,903	474,494	1,894	977,620	△ 187,329
2 月	793,956	306,904	484,856	2,196	776,456	17,500
3 月	739,460	232,483	489,965	17,012	613,056	126,404
今年度半期計	5,316,793	2,350,453	2,932,776	33,564	5,387,181	△ 70,388
＊ 前年度半期計	5,355,649	2,231,420	3,095,742	28,487	5,163,667	191,982

＊ 23年度4月～9月の半期計とした。

1　指定管理者の収入を記載する（県の収入である「使用料」は含まない）。
2　「その他収入」は、都市公園の駐車場収入、雑収入、寄付金収入など指定管理料と利用料金以外のすべての収入を記載する。

収支状況に関する意見書

①年間予算額における収支差額が0でない場合は、その理由を記載する。
②今年度半期計欄の収支差額が、収入合計又は支出額のうち低い方の額の1割以上プラス又はマイナスとなっている場合は、その理由を分析し詳細に記載するとともに、必要な場合は、対応策も併せて記載する。また、収支差額に1割以上プラスが生じた主な理由が、人件費の削減である場合は、年度協定における人員配置計画と比較し、合理性が認められるか否かを記載する。
③今年度半期計における収入額又は支出額が前年度対比30%以上プラス又は、マイナスとなっている場合は、理由を分析し、詳細に記載する。

＜意見等＞
①～③該当なし

【年間収支状況】
年間の予算額と決算額を対比すると、
自己収入の福祉施設収入については予算を達成し、316万円の収入増となったが、2病院においては利用実績の減により▲8,089万円の減収となり、その他収入を含め自己収入は▲7,619万円の減収となった。
一方、支出は利用実績の減に伴う薬品費等の▲4,829万円の減のほか、臨時・非常勤職員での業務対応や料率の低い健康保険組合への移行(24年2月より)等の努力による人件費の▲7,621万円の減、また、電気料の節減や委託業務の仕様見直し等による▲7,328万円の減となった。
この結果、23年度決算は、自己収入が▲7,619万円の減、支出が▲1億9,778万円の減となり、収支差額は1億2,159万円(黒字)となった。

＜参考＞
本施設について県が支出した(する)修繕費等

１０万円以上の修繕費等については、県が支出することと基本協定で定めている。施設の状況をより的確に把握するため、県が支出した修繕費等についても参考に記載している。
１　県が支出した施設の修繕費等の金額及び工事内容を記載する。
２　「金額」欄は、半期ごとの総額を記載し、「工事箇所・内容」欄には、主な工事とその金額をカッコ書きで記載する。

	金額	工事箇所･内容	
上半期	29,631 千円	七沢学園居住棟屋上防水改修工事	26,639 千円
		神奈川リハ病院東側構内道路補修工事	983 千円
		七沢病院新館 職員厨房給湯管改修工事	973 千円
		七沢病院新館 №1ボイラー耐火材打替工事	1,036 千円
下半期	65,564 千円	神奈川リハ病院敷地西側構内フェンス交換工事	1,995 千円
		神奈川県総合リハビリテーションセンター再整備工事基本設計(その2)	53,025 千円
		神奈川県総合リハビリテーションセンター測量業務委託(その1)	5,005 千円
		神奈川県総合リハビリテーションセンター地質調査業務委託	5,534 千円
総額	95,195 千円		95,195 千円

（今期に行った資本的な収支及び支出の状況）

	内容	金額(千円)
収入の状況		0 千円
支出の状況		0 千円
積立金の状況		0 千円

収入の状況：定期預金の取り崩し、借入れによる収入があった場合等は、その旨を必ず記載する。
支出の状況：車両の購入、施設の増改築、また定期預金の積み立てを支出に含めた場合等は、その内容を必ず記載する。
積立等の状況：積立・借入れ等がある場合は、その内容（施設の増改築のための積立・借入れ、定期預金等）、当該期首及び期末の金額を必ず記載する。

5　利用状況

(1)七沢学園(児童・入所)

	利用者数	前年同月利用者数	前年対比増減率
10月	928 人	851 人	9.0%
11月	900 人	864 人	4.2%
12月	917 人	867 人	5.8%
1月	965 人	891 人	8.3%
2月	926 人	836 人	10.8%
3月	886 人	907 人	△ 2.3%

	目標利用者数	利用者数	前年同月利用者数	②目標対比増減率	①前年対比増減率
今年度上半期計	5,124人	5,568人	5,065人	8.7%	9.9%
今年度下半期計	4,941人	5,522人	5,216人	11.8%	5.9%

(2)七沢学園(児童・地域支援【短期入所、家族短期、家族一日、日中一時支援】)

	利用者数	前年同月利用者数	前年対比増減率
10月	110 人	73 人	50.7%
11月	100 人	81 人	23.5%
12月	84 人	104 人	△ 19.2%
1月	67 人	115 人	△ 41.7%
2月	50 人	64 人	△ 21.9%
3月	86 人	85 人	1.2%

	目標利用者数	利用者数	前年同月利用者数	②目標対比増減率	①前年対比増減率
今年度上半期計	972人	517人	720人	△ 46.8%	△ 28.2%
今年度下半期計	972人	497人	522人	△ 48.9%	△ 4.8%

利用状況に関する意見等

②は△48.9％となっている。短期入所については利用者の要望も高く、目標を上回っているが、家族短期や家族一日は、これまで県域全体を対象としてきたが、各地域において同様の事業を行っており、対象範囲が近隣に限られてきている状況である。

(3)七沢学園(成人・入所)

	利用者数	前年同月利用者数	前年対比増減率
10月	1,623 人	2,028 人	△ 20.0%
11月	1,560 人	1,842 人	△ 15.3%
12月	1,622 人	1,807 人	△ 10.2%
1月	1,511 人	1,856 人	△ 18.6%
2月	1,406 人	1,705 人	△ 17.5%
3月	1,461 人	1,881 人	△ 22.3%

	目標利用者数	利用者数	前年同月利用者数	②目標対比増減率	①前年対比増減率
今年度上半期計	9,882人	10,546人	12,895人	6.7%	△ 18.2%
今年度下半期計	9,882人	9,183人	11,119人	△ 7.1%	△ 17.4%

利用状況に関する意見等

①の△17.4％は、平成23年4月から、就労移行支援事業の定員削減を行った(22年度定員80人→23年度定員60人)ことによるものである。

②の△7.1%は、24年度以降に計画されている福祉施設再編整備計画に伴う居住棟の訓練棟機能の受入れ等活用を見据えてフロアーの構成を6寮から5寮に縮小していく必要があるため、生活訓練対象枠の入所者調整を行ったことによるものである。

(4)七沢学園(成人・地域支援【短期入所、日中一時支援】)

	利用者数	前年同月利用者数	前年対比増減率
10月	156 人	37 人	321.6%
11月	99 人	23 人	330.4%
12月	76 人	32 人	137.5%
1月	99 人	24 人	312.5%
2月	59 人	31 人	90.3%
3月	73 人	45 人	62.2%

	目標利用者数	利用者数	前年同月利用者数	②目標対比増減率	①前年対比増減率
今年度上半期計	180人	417人	167人	131.7%	149.7%
今年度下半期計	180人	562人	192人	212.2%	192.7%

利用状況に関する意見等

(　①の192.7%は、入所支援の契約満期を迎えた利用者について、市町村から短期入所による利用継続を依頼され、対応しているためである。　)

(5)七沢療育園(入所)

	利用者数	前年同月利用者数	前年対比増減率
10月	1,102 人	1,175 人	△ 6.2%
11月	1,145 人	1,169 人	△ 2.1%
12月	1,149 人	1,156 人	△ 0.6%
1月	1,151 人	1,130 人	1.9%
2月	1,134 人	1,073 人	5.7%
3月	1,164 人	1,184 人	△ 1.7%

	目標利用者数	利用者数	前年同月利用者数	②目標対比増減率	①前年対比増減率
今年度上半期計	6,771人	7,053人	6,960人	4.2%	1.3%
今年度下半期計	6,771人	6,845人	6,887人	1.1%	△ 0.6%

(6)七沢療育園(地域支援【短期入所、重心親子教室、療育訪問指導】)

	利用者数	前年同月利用者数	前年対比増減率
10月	28 人	64 人	△ 56.3%
11月	48 人	48 人	0.0%
12月	40 人	58 人	△ 31.0%
1月	14 人	91 人	△ 84.6%
2月	20 人	48 人	△ 58.3%
3月	62 人	74 人	△ 16.2%

	目標利用者数	利用者数	前年同月利用者数	②目標対比増減率	①前年対比増減率
今年度上半期計	129人	302人	259人	134.1%	16.6%
今年度下半期計	129人	212人	383人	64.3%	△ 44.6%

利用状況に関する意見等

(①は44.6%の減となっている。 利用者が医療ケアの対応を必要とする割合が高いため、受入れの際に医療の対応が図れるよう、中期入所として受け入れるように調整したたため、結果的に中期利用者が増加した分短期利用者が減少した。)

(7)七沢更生ライトホーム(入所)

	利用者数	前年同月利用者数	前年対比増減率
10月	1,965 人	1,695 人	15.9%
11月	1,815 人	1,639 人	10.7%
12月	1,864 人	1,730 人	7.7%
1月	1,801 人	1,760 人	2.3%
2月	1,768 人	1,516 人	16.6%
3月	1,815 人	1,692 人	7.3%

	目標利用者数	利用者数	前年同月利用者数	②目標対比増減率	①前年対比増減率
今年度上半期計	11,895人	9,513人	11,088人	△ 20.0%	△ 14.2%
今年度下半期計	11,895人	11,028人	10,032人	△ 7.3%	9.9%

利用状況に関する意見等

②の△7.3%について。上半期と同様に、入所申込が減少傾向にある。その理由は(障害固定の関係上) 障害者手帳の発行に時間がかかり、すぐに入所手続きが出来ないこと。また市町村からの受給者証の発行が必要なことから、入所者数が目標に対し減となっている。入所者の潜在的利用希望はある(病院の在院期間は限られており、病院側の情報として、さらに訓練を継続できるケースはあると聞いた。)ことから、医療機関への訪問、福祉事務所や施設の担当者への説明会を開催するなどし、利用者の確保に取り組んだ結果、上半期よりも利用者数が1,515人増となった。

(8)七沢更生ライトホーム(地域支援【短期入所、通所、受託評価】)

	利用者数	前年同月利用者数	前年対比増減率
10月	127 人	286 人	△ 55.6%
11月	127 人	211 人	△ 39.8%
12月	183 人	201 人	△ 9.0%
1月	157 人	200 人	△ 21.5%
2月	160 人	233 人	△ 31.3%
3月	147 人	275 人	△ 46.5%

	目標利用者数	利用者数	前年同月利用者数	②目標対比増減率	①前年対比増減率
今年度上半期計	1,368人	1,130人	1,099人	△ 17.4%	2.8%
今年度下半期計	1,327人	901人	1,406人	△ 32.1%	△ 35.9%

利用状況に関する意見等

①及び②について。在宅介護や地域での受入れが難しい、長期受入れをせざるを得ない利用者が減少したことによる。

(9)神奈川リハビリテーション病院(入院)

	利用者数	前年同月利用者数	前年対比増減率
10月	7,543 人	7,201 人	4.7%
11月	7,307 人	7,124 人	2.6%
12月	7,023 人	7,113 人	△ 1.3%
1月	6,896 人	7,032 人	△ 1.9%
2月	6,735 人	7,109 人	△ 5.3%
3月	7,133 人	7,570 人	△ 5.8%

	目標利用者数	利用者数	前年同月利用者数	②目標対比増減率	①前年対比増減率
今年度上半期計	46,116人	44,637人	42,787人	△ 3.2%	4.3%
今年度下半期計	46,116人	42,637人	43,149人	△ 7.5%	△ 1.2%

利用状況に関する意見等

②の△7.5%について。入院患者減の主な理由は、内科系疾患の入院患者減少によるものである。
さらに、内科(循環器)医師の退職に伴う、3月入院患者の減が要因となっている。
(内科系疾患入院患者数は前年度下半期4、506人から3、479人と1027人の減となっている。)
救急医療に取り組む大学病院と連携し患者の早期受け入れを図るなどし患者の確保に取り組む。

(10)神奈川リハビリテーション病院(外来)

	利用者数	前年同月利用者数	前年対比増減率
10月	6,763 人	7,638 人	△ 11.5%
11月	7,053 人	6,995 人	0.8%
12月	6,453 人	6,873 人	△ 6.1%
1月	6,280 人	6,675 人	△ 5.9%
2月	6,550 人	6,470 人	1.2%
3月	7,155 人	6,929 人	3.3%

	目標利用者数	利用者数	前年同月利用者数	②目標対比増減率	①前年対比増減率
今年度上半期計	46,500人	40,765人	41,179人	△ 12.3%	△ 1.0%
今年度下半期計	44,950人	40,254人	41,580人	△ 10.4%	△ 3.2%

利用状況に関する意見等

②の△10.4%について。神奈川リハ病院の外来患者には福祉施設からの受診者が含まれており、指定管理初年度の18年度は、外来全体に占める割合が約10%を占めていたが、県障害福祉計画により福祉施設全体の定数が、18年度320人から23年度では200人と△120人減まで見直されている。
それに伴い、福祉施設の受診者が22年度では5.7%まで減しているが、この間、目標数(当初予算)の見直しを行ってこなかった為、目標増減率△10.4%となっている。
よって、目標数を23年度1日当り310人から24年度では300人へと見直している状況である。

(11) 七沢リハビリテーション病院脳血管センター(入院)

	利用者数	前年同月利用者数	前年対比増減率
10月	4,178 人	5,234 人	△ 20.2%
11月	4,541 人	5,069 人	△ 10.4%
12月	4,888 人	5,160 人	△ 5.3%
1月	5,277 人	5,617 人	△ 6.1%
2月	5,013 人	5,468 人	△ 8.3%
3月	5,108 人	5,946 人	△ 14.1%

	目標利用者数	利用者数	前年同月利用者数	②目標対比増減率	①前年対比増減率
今年度上半期計	40,352人	30,470人	35,757人	△ 24.5%	△ 14.8%
今年度下半期計	40,809人	29,005人	32,494人	△ 28.9%	△ 10.7%

利用状況に関する意見等

①及び②について。
平成24年4月から9月までが245床、10月から平成24年3月までが195床で病床数を運用したため、利用者数が減となった。
また、回復期リハ病棟をもつ病院の増加に伴い、患者の選択肢も広がっていることも要因としてとらえている。
対策として、様々な圏域で行われる脳卒中の勉強会で、連携パスの使い方などの指導を行うが、その機会を使い、病院のアピールを行うことで、利用率の向上及び目標の達成を図る。
(脳卒中の勉強会は、平塚、秦野、伊勢原等の近場をはじめ、県西部や横浜などでも行っている。)

(12) 七沢リハビリテーション病院脳血管センター(外来)

	利用者数	前年同月利用者数	前年対比増減率
10月	1,000 人	946 人	5.7%
11月	764 人	1,010 人	△ 24.4%
12月	786 人	818 人	△ 3.9%
1月	734 人	784 人	△ 6.4%
2月	811 人	768 人	5.6%
3月	815 人	876 人	△ 7.0%

	目標利用者数	利用者数	前年同月利用者数	②目標対比増減率	①前年対比増減率
今年度上半期計	7,500人	4,844人	5,161人	△ 35.4%	△ 6.1%
今年度下半期計	7,250人	4,910人	5,202人	△ 32.3%	△ 5.6%

利用状況に関する意見等

②32.3%については、病院の交通の便の問題もあり、患者数が伸び悩んでいる。
患者確保対策として、外来で退院患者のフォローアップを行っている。
また、生活改善習慣改善外来において健康診断を行い、個別保健指導の一環として健康診断の二次指導を引き受けることで、医師会の健診部会等への宣伝に努めるなど、利用者の確保に取り組んでいく。

6 苦情・要望等の状況
受付件数(うち施設所管課受付分)
(1)七沢学園(児童)

	口頭		文書			合計
下半期報告	対面	電話	手紙	メール	アンケート	
合計	(0) 0	(0) 0	(0) 0	(0) 0	(0) 0	(0) 0

(2)七沢学園(成人)

	口頭		文書			合計
下半期報告	対面	電話	手紙	メール	アンケート	
合計	(0) 2	(0) 0	(0) 0	(0) 0	(0) 0	(0) 2

(3)七沢療育園

	口頭		文書			合計
下半期報告	対面	電話	手紙	メール	アンケート	
合計	(0) 2	(0) 0	(0) 0	(0) 0	(0) 0	(0) 2

(4)七沢更生ライトホーム

	口頭		文書			合計
下半期報告	対面	電話	手紙	メール	アンケート	
合計	(0) 0	(0) 1	(0) 0	(0) 0	(0) 0	(0) 1

(5)神奈川リハビリテーション病院

	口頭		文書			合計
下半期報告	対面	電話	手紙	メール	アンケート	
合計	(0) 15	(0) 10	(0) 28	(0) 1	(0) 0	(0) 54

(6)七沢リハビリテーション病院脳血管センター

	口頭		文書			合計
下半期報告	対面	電話	手紙	メール	アンケート	
合計	(0) 1	(0) 2	(0) 15	(0) 0	(0) 0	(0) 18

7　特筆すべき苦情･要望及び対応状況

（類似の苦情や要望が多く寄せられたもの、苦情や要望をもとに対応した取組みが利用者に評価されたもの、苦情や要望のうち対応したいと考えるが、諸般の事情により対応できないものなど、特に注意すべき場合に記載する。）

分　野	概　　要	対応状況
職員対応	医師の診断と説明に感動した。他でも体の不調についていろいろと話を聞いたが、ここの病院の的確な診断と親切が心にしみた。看護師さんも、受付もあたたかく、手際よく、嬉しく思い、これからも体操、リハビリを努力する。	感謝の言葉を、所属長を通じて当該者に伝えた。

8　事故や不祥事等の発生状況

（利用者や職員が死傷した場合、業務の実施において法令違反等による指導や処分を受けた場合及び個人情報や公金の管理等において不適切な取扱い等があった場合は、その概要と対応状況を記載する。なお、利用者の死亡事故や個人情報の流出等、重大な事故や不祥事が発生した場合は、県庁改革課に任意の様式により速やかに報告書を提出する。）

発生日	事故の概要	指定管理者の対応状況	
月　　日			

9 随時モニタリングの実施状況

（事故や不祥事の発生等に伴い、施設所管課が随時モニタリングを実施した場合は、調査内容や結果を記載する。）

実施日	対応者等	経緯・調査内容	調査結果
月　　日			
月　　日			

10 上（下）半期の所見等

（２～９の各項目の状況等を踏まえ、指定管理業務をより効果的・効率的に推進する観点から、反省点や改善策等を記載する。）

指　定 管理者	福祉施設の利用者数については、七沢学園の就労移行支援事業が、県の障害福祉計画に基づき、20人の地域移行を行い、定員が22年度の80人に対して23年度から60人となっており、このため入所者数は減となっている。 病院については、地域における回復期リハ病棟の増加、地域の医療連携の進展などにより、七沢病院は前年度を下回る厳しい状況となっている。県域の各地で行われる脳卒中勉強会の機会を利用して七沢病院のアピールを行うとともに、照会元病院への定期的な訪問を行うことで、申込件数の増加に向け努力していく。さらに、外部医療機関等に向けてベッドの空き情報などの情報を発信し患者確保に努める。 センター全体としては、平成23年3月に策定した新経営計画改訂計画（R21）変更実施計画に基づき、具体的な実績や数値などの中期目標の達成に向けて、より専門性を高めつつ、同時に効率性を高めコスト削減を図り、相反する業務の質と経営のバランスを図りながら指定管理業務に取り組む。
施　設 所管課	（社福）神奈川県総合リハビリテーション事業団は、指定管理業務を効果的に実施するとともに、法人の効率的な運営に向け、平成23年3月に策定した新経営計画改訂計画（R21）変更実施計画に基づき、社会環境の変化や新たな課題に柔軟に対応した取組みを進めていることから、この計画が着実に推進されるよう、今後も指導を継続する。